

～ かがやく杉谷っ子のために ～

ONE TEAM



島原市立第四小学校
学校だより No.141
令和5年7月10日(月)
文責：校長 大槻浩二

自信とプライドに!(学力調査結果)

4月に実施した島原市学力調査(2～4年生)、長崎県学力調査(5年生)における結果をお知らせします。本校児童の平均正答率と、県又は全国の平均正答率との比較は、グラフ・表のとおりです。6年生の県学力調査(理科)も公表されましたが、結果は全国学力学習状況調査(国語・算数)の結果が公表されてから同時にお知らせします。

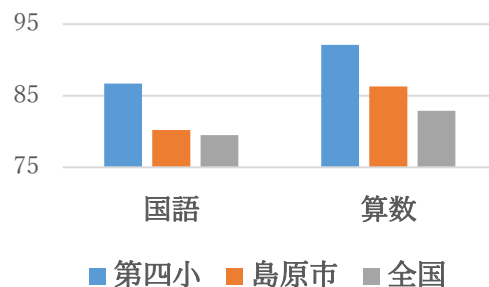
今年度も全学年2教科とも全国・県の平均正答率を上回るすばらしい結果でした。今年度は、どの学年も、昨年度をさらに上回る結果となっています。島原市内の小学校の平均値も大きく上回る結果となり、市内の学校をリードしています。

全学年が毎年、向上を重ねている理由は、全職員が子どもの未来のため、授業を大切にし、真摯に努力を重ねていること、生徒指導の充実、家庭の協力など、これまでの「積み重ね」の結果です。今後も、自信をプライドに変え、子どもたちが将来、必要な力を確実に身に付けさせていきます。個人結果を面談で配布しますので、一緒にご覧になり、称賛と励ましをお願いします。

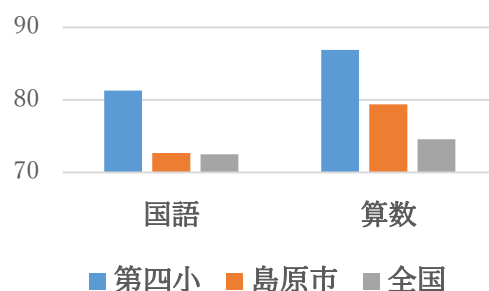
【全国・県平均正答率との比較】

		国語	算数
2年生	島原市	+3.3	+3.4
	<u>第四小</u>	<u>+9.8</u>	<u>+9.2</u>
3年生	島原市	+0.2	+4.8
	<u>第四小</u>	<u>+8.8</u>	<u>+12.3</u>
4年生	島原市	+1.8	+2.9
	<u>第四小</u>	<u>+6.4</u>	<u>+7.5</u>
5年生	島原市	+3.4	+4.0
	<u>第四小</u>	<u>+9.0</u>	<u>+8.6</u>

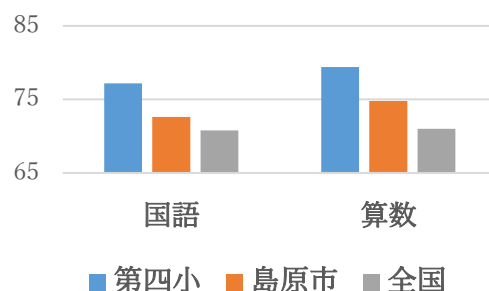
2年生 平均正答率



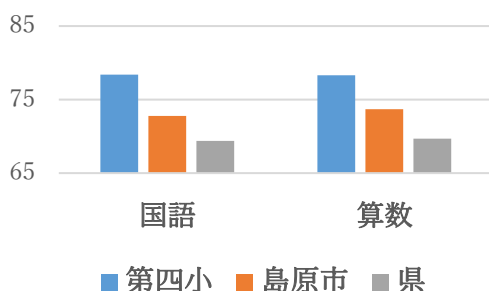
3年生 平均正答率



4年生 平均正答率



5年生 平均正答率



学力調査から見えてきたもの

これまでの全国学力学習状況調査の結果や本校の分析、授業や生活の様子から、学力の高い子の特徴には次のような特徴が見えてきます。

特徴①「気分(情緒)が安定している」

学力が高い子どもは気分が安定してムラがありません。能力のムラもなくなるため、いつでも能力を安定して発揮できます。子どもの気分には、家族間のコミュニケーションが大きく影響します。特に、親子同士のコミュニケーションが良いほど、子どもの情緒も安定するためです。

特徴②「規則正しい生活を送っている」

生活習慣と学力は、密接な関係にあります。生活習慣は、積み重ねで大きく差が出てくるポイントです。子どもの生活習慣は、親からの影響を大きく受けます。親子で生活習慣を見直しましょう。

特徴③「自分の管理は自分でできる」

自己管理能力が高いと、自分の学習時間などを把握し、コントロールすることもできます。「宿題忘れや忘れ物がない」「時間割の準備など自分でできる」「テレビやゲームの時間の管理を自ら行える」など。

特徴④「規範意識が高い」

学校のルール、交通ルール、家庭のルールの意味を理解し、善悪の判断ができる子は、学力にも大きく関係しています。ルールの意味を理解し、適切な判断や行動がとれる子は、「考える力(思考力)」が備わっています。また、規範意識が高まると叱られたり注意を受けたりすることも少なく、正しい行動を褒められることが多く、自己肯定感が高くなり、全ての行動に意欲的になります。

特徴⑤「責任感があり、主体性がある」

学校や家庭での役割をきちんと果たす、人から言われなくても自分で考えて進んで行動することは、学びの姿勢に大きく関係してきます。必然的に学力も高くなります。やるべき課題をきちんと果たす、やるべき仕事や手伝いを行うことは、信頼につながるとともに、自信にもつながります。また、主体性は、積極的な発表につながり、言語化や Output することで理解が深まり、知識が確実に身につきます。

学力で結果が出ない子どもには、これらの逆のことが言えます。

二極化へのアプローチ

課題も見えてきました。「二極化」です。二極化とは、成績上位の子と下位の子の差が大きくなることです。図は、ある学年の「正答率度数分布図」です。正答率が高い子の人数が多いのが、本校の特徴ですが、上位集団と下位集団の差が離れていることが見えます。この二極化の解消に向け対策を講じていきます。前述の5つの特徴に大きく関係するのですが、まずは「宿題忘れ0」の徹底です。次号特集します。

